

火山災害を伝える「自然災害伝承碑」

御嶽山

御嶽山噴火災害犠牲者慰霊碑

災害名：噴火（2014年9月27日）

平成26年（2014）9月27日、御嶽山が噴火。人知を超えた自然の容赦ない猛威により登山者らが巻き込まれ、58名の尊い命が奪われ、5名の定取り途絶え生還叶わぬ、火山史上希にみる噴火災害となった。

長野県王滝村



渡島大島

光明寺寛保津波の碑

災害名：寛保津波（1741年8月29日）



北海道松前町

雲仙岳

雲仙岳災害記念碑

災害名：平成3年雲仙岳噴火（1991年6月3日）



長崎県島原市

十勝岳

大正大爆発丸谷温泉遭難者慰霊碑

災害名：火山噴火・泥流（1926年5月24日）



北海道美瑛町

富士山

富士山宝永噴火 三百年記念碑

災害名：富士山宝永噴火（1707年12月16日）

宝永4年（1707）12月16日に発生した富士山の宝永噴火は、南東斜面に3つの新火口である宝永火口、噴火に伴う隆起で宝永山が出現するなど、大規模なものであった。噴火の際に放出された膨大なデフラ（図形の噴出物）は、西風に乗り、御厨地方や南関東一帯へ降下し、建築物の倒壊や農作地が耕作不能となるなど、大きな被害をもたらした。碑には宝永噴火堆積物の剥ぎ取り標本が盛込まれている。



静岡県御殿場市

桜島

櫻島爆発記念（有村）

災害名：大正噴火（1914年1月12日）

大正3年（1914）、天地を砕く大噴火とともに桜島は凄惨な大爆発を始め、島民はあわてて自分の船や救援船で対岸に避難した。豊饒な土地は累々たる溶岩と化し、有村村民の多くは移住したが、帰ってきて開拓に従事するものもあった。噴火のてん末を記録し、後世に伝えたい。



鹿児島県
鹿児島市

火山災害を伝える
「自然災害伝承碑」の登録数 39基

「自然災害伝承碑」12/7時点（火山災害関連碑のみ）

▲活火山（出典：気象庁活火山総覧）

【問合せ】東京都千代田区九段南1-1-15九段第2合同庁舎（担当：住谷、阪上）
（E-mail）gsi-denshou+kan10@gxb.mlit.go.jp（TEL）03-5213-2054

国土地理院関東地方測量部



（背景図に「地理院タイル」使用）